

下の図は、2021 年 12 月に全国の 15 歳から 69 歳の男女を対象に実施された「生活者年末ネット調査」の「一人行動に抵抗感の無い活動」についての結果をまとめたものである。グラフでは、Z 世代と Z 世代以外の比較を行っている。グラフに記載されたそれぞれの活動について、「抵抗感はない」「どちらかといえば抵抗感はない」と回答した人の合計割合が表示されている。この図をよく見て、以下の 2 つの設問に答えなさい。

参考：Z 世代とは、1990 年代後半以降に生まれた人を指し、2021 年時点では概ね 25 歳以下の人（本調査では 15 歳から 25 歳で定義）

問 1) 図から読み取ることができる事実を 300 字程度で書きなさい。

問 2) 問 1 で読み取った事実を踏まえて、このような違いがあらわれた背景についてあなたの考えを 500 字程度で述べなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

2025 年度 学校推薦型選抜 学芸学部心理行動科学科 小論文
出典・出題意図 ・解答例

【出典】 野村総合研究所「生活者年末ネット調査より」（2022年2月）

https://www.nri.com/jp/knowledge/report/1st/2022/cc/0202__1

【出題意図】 グラフに描かれている事実を正確に読み取る力、読み取った事実から現象について客観的かつ論理的に考える力、および、これらを的確に表現する能力を問う。

【解答例】

問1)

一人行動に抵抗感の無い活動について、蕎麦や牛丼などのチェーン店やファミリーレストラン、国内旅行、ライブやコンサート、アウトドア系のレジャーといった活動は、Z世代とZ世代以外において、少し差があるものもあったが、ほぼ同程度に抵抗感がないという回答が得られていた。一方で、カラオケや焼肉や食べ放題などのグループ利用が多い店、居酒屋、海外旅行、テーマパークといった活動は、Z世代の方がZ世代以外よりも抵抗感がないという結果が示されていた。Z世代とZ世代以外の方に差が大きかった活動はカラオケであった。今回取り上げられた10個の活動について、Z世代はどの活動においても一人行動に抵抗感がないと評価していた。

(298字)

問2)

蕎麦や牛丼などのチェーン店やファミリーレストラン、国内旅行、ライブやコンサート、アウトドア系のレジャーといった活動では、Z世代とZ世代以外ともに抵抗感がないという結果となっており、カラオケや焼肉や食べ放題などのグループ利用が多い店、居酒屋、海外旅行、テーマパークといった活動では、Z世代の方がより抵抗感がないという結果が示されていた。このような違いがあらわれた背景として、まずZ世代の自身の特徴があることが考えられる。Z世代は、インターネットでの情報収集やSNSを利用したコミュニケーションを頻繁に行っており、直接的にあうことがなくても、SNS上で経験を共有することができればいいと考え、Z世代以外の人であれば敬遠したい活動であっても、一人で活動することについて抵抗感がないのかもしれない。また、ワイヤレスのイヤホンがあることで、周りの音を聞かずに自分だけの空間を楽しむことができ、一人活動のハードルも下がっているのかもしれない。また、様々な飲食店などが一人でも来店できるように状況を整えていることを踏まえると、一人行動を許容する社会ができており、抵抗感が減ることにつながっているのかもしれない。

(495字)